

寺報

乗雲

2025年度 永代経法要
住職インタビュー
ホームページ過去投稿まとめ
2025年度行事予定表
お知らせ

1号

写真：2025年度 永代経法要 4月12日(土) 山門

2025年度

永代経法要



^{えいたいきょう}永代経は、詳しくは「^{えいたいどっきょう}永代読経」といい、永代にわたってお経を^{きょう}読み、そのお心をいただいて参りましょう、という法要です。

^{しんしゅうもん}と真宗門徒が永代経を大切に思うのは、この法要が、^な亡き人、ご先祖に対する^{ほうおんかんしゃ}報恩感謝の気持ちを表す場となっているからでしょう。

浄土真宗本願寺派総合研究所『永代経の由来とところ』



ほうおんかんしゃ もんと
毎年、永代経法要と報恩講法要では多くのご門徒さまによろこんでいただけるように、さまざまな布教師にお越しいただいております。

この場でしか聞けないご法話を、みなさまと一緒に味わっていきたく思いますので、ぜひお越しください。



ぎょうえん
布教師：山本行圓
いなそ れんじょうじ
(和歌山教区 伊那組 蓮乗寺)



住職インタビュー

やまもとぎょうえん

山本行圓 師

住職：そしたら、インタビューさせていただきますようにお願いします。

山本：よろしくお願いします。

住職：山本師には事前に8項目の取材前アンケートをさせていただきました。今回はその問と回答にそって取材させていただきます。

まず、1.「あなたにとって浄土真宗とは何ですか」という問いに対して、「ひかり」というように書かれていましたが、具体的にどういうことでしょうか。

山本：最近勉強していく中で、今回の法話の中でも話しましたが、親鸞聖人様の書物『教行信証』の中の行巻の中で、「大經とはすなわち無碍光如来の御名を称する」とありまして、親鸞聖人はこの「ひかり」

というものを多くテーマに挙げられておられたので、真宗を一言で短く言い表すなら「ひかり」かなと思い、書かせていただきました。

住職：なるほど。わかりました。それでは次に、2.「仏教の中での浄土真宗の特徴を一つ挙げてください」というところで、「阿弥陀様からあたえられたお念仏」と答えておられました。これは浄土真宗で言うところのお念仏は「南無阿弥陀仏」ということになると思いますけれども、真宗の特徴として「お念仏」と挙げられた意味を教えてください。

山本：これは、いつもお念仏のお話をする延長線上で、わりと法然聖人の浄土宗と、浄土真宗との「お念仏」の違いはどういうものなのかというお話を割とさせていただくのですが、この中で比較して、「自力と他力の念仏」という違いが出てきます。

浄土宗では念仏を他力とは言わないです。なぜかというと、浄土宗において、「私たちが自分の力と責任をもってお念仏をする」からそれをうけて阿弥陀様が助けてくださる。つまり、念仏そのものは

自力であるとしている。けれど、浄土真宗は「お念仏も含めてすべて阿弥陀様をご用意されたものである」から、親鸞聖人はお念仏も他力とおっしゃっています。

つまり、「お念仏」というところは一緒でも、その受け止め方として「自分が称えた」と「阿弥陀様から与えてくださった」といういただき方の違いが、そのまま特徴の一つにあらわれているということです。

住職：ありがとうございます。それでは次に、3. 「現代において僧侶が担うことができる役割はどんなものがあると思いますか」という問いで、「ひたすら実践」と回答されていました。実践というと、僧侶の中でもさまざまな事項があると思いますが、例えばどんな実践でしょうか。

山本：身の回りにあることすべてです。なんといいますか、言うだけではなく、何事も行動が伴わないとダメですよという意味ですかね。そういう意味でひたすら実践ということで、特にどれというわけではなく、やっぱり行動することによって、我々は

生き方を示しているんだなっていうことがあるので、そういう意味では浄土真宗としてのこの私の僧侶としての生き方をみんなに見せていくということが、今も昔も変わらず担っている役割だと思います。

住職：わかりました。それでは次に、ここから質問の趣旨が変わりますが、4. 「布教師になった理由やきっかけ」ということで、山本師自身のお話になっていくわけですが、その答えには「周囲のすすめと援助」というふうにありましたが、例えば周囲のすすめと援助の中で一番印象に残っている方、あるいは言葉というものは何かありますでしょうか？



山本：2人いまして、1人は連れ合い（坊守）でありまして、もう1人は隣寺の花田住職です。この2人のすすめと援助がなかったら布教師にはなっていませんでした。布教師になるにはいくつか方法がありますが、多くの人は京都の伝道院へ100日間勉強のために入らせてもらうことになります。ですが、私にとって100日間お寺を離れるというのはなかなか勇気があることで、そこを花田住職がまず「何かあったら私が援助して何とかするから気にせず行っておいで」と言ってくださいました。そして、同じように連れ合いも言ってくださって、その2人のたすけで、伝道院に行くことができ、布教師になれました。

住職：布教師になろうとは思っていたのですか？

山本：いや、当初は全くそんな思いはなく、伝道院に入ることができる最終年に布教師をすすめてくださって、それが「ご縁だな」と思って、2人のすすめがきっかけとなったということです。

住職：なるほど。わかりました。続いて、5.「布教師として気をつけていること、心がけていることはありますか」という問いに対して、「必ず原稿を作ること、

また同会所で同じ内容を話さないこと」と回答いただきました。まず、その原稿を作るところなのですが、その原稿作りに対して、例えば何か気をつけるところであったり、文言の気にするところはありますでしょうか。

山本：それこそ伝道院で原稿の作り方も学ぶのですが、やはり言うてはならない言葉があります。そういうのが出る理由というのは、やはり考え方として「原稿を作らないから自分の中にあるものがポロツと出てしまうんだ。」という研修みたいのがあるわけです。丸覚えしてるわけじゃないですけど、原稿を作ることによって自分の中で見直しができるわけです。作った原稿を見て、言うてはいけないこととか、表現的にまずいものは必ず書かないという習慣をつけていくことがとても大事だということを教わりました。言いたいことのまとめとプラス、禁止用語のような気をつけるところ。これらを注意するための原稿作り。人を傷つけるような言葉を言わないようにするとすると、やっぱり作って覚えないと、どこかで普段日常からそういう思いがあ

ったら出てしまいますから、それを戒めるためにも必ず原稿は作るということです。

住職：同会所で同じ内容を話さないというのは。

山本：これも私のこだわりですが、同じところで法話させてもらうときに、前に話した法話の原稿を必ず見て振り返り、同じ内容にならないようにしています。これはやっぱりみなさんに同じ話を聞かせないようにということと同時に自分の成長につなげるということを考えてこのようにしています。せっかく時間を使って来てくださったみなさんに「また同じ話をしてる」と感じられると、やっぱりがっかりさせることになると思うので、毎回違う内容で阿弥陀様を讃嘆するという、自分のこだわりです。

住職：原稿はすべて残されているのですか？

山本：残しています。データでパソコンに残して、法話内容や行かせてもらった回数を簡単に確認できるようにしています。

住職：なるほど。ありがとうございます。それでは次に、6.「あなたのお寺で特別に取り組んでいる

ことはありますか」というところですが、これに対して「毎月開催される法話会での聴聞を身近に感じてもらうこと」とありました。私も法話会に参加させていただきましたけれども、とても身になる法話会で、その時の法話の感想アンケートもいただきました。私は布教師ではありませんので、そういう人も法話会に参加させていただく貴重な経験をさせていただきました。この法話会、ご門徒さんからの評判はどうでしょうか。

山本：そうですね、やはり毎月あるので習慣になるっていうんですかね。いつもいらっしゃる方はもう大体同じ方がいらっしゃってくださいますし、やっぱり年2回とか、たまにするぐらいだと、用事が合わなかったらなかなか来れないし、もうその後はもう1回みたいな感じだったのが毎月あるので、どれかに行けるようにというような感じで。今まで普段お顔を見せなかった方々がいらっしゃってくださるので、大変ありがたいと思っています。ちょっとずつ増えてきてるのでありがたいですね。

住職：今後はどのような展望を目指していますか？

山本：今のところは講師依頼できていない日は私が法話していますが、理想は12か月全部依頼したみなさまに来ていただきたく思っています。来年度はそれができるように考えています。

住職：法話会以外で今後取り組もうと思っていることなどはありますか？

山本：そうですね。これまでいろいろなことに取り組んできましたが、なかなか続かなかったり失敗したりを繰り返しながら、この法話会をしているので、これがまたうまくいかないことが出てきたときに、新しい試みだなと思うものに挑戦したいと思います。

住職：ありがとうございます。それでは次に、また質問の趣旨がかわりますが、7.「門信徒におすすめする書籍を一つ挙げておすすめポイントを教えてください」ということで、これは広く門信徒の方に向けたお話なんですけれども、この問いに対して『『悩んだら歎異抄』という本ですね。心理カウンセラーの著者がこれまで経験したカウンセリングと歎異抄の条文

を重ね合わせて、気づかされたことを丁寧にやさしく記されている点がおすすめポイント」とあります。私も読ませていただきました。まだ途中までしか読んでいませんが、門信徒の方にもおすすめですが、僧侶にもおすすめできるという印象でした。心理カウンセラーという僧侶とは別の視点から、浄土真宗の教えをどういう形で活用して、どのように考えているのかということを知ることができますし、著者の経験の中から悩みを抱えた人への対処が書かれています。自分だったらどんな声掛けをするだろうと想像できる本で、興味深く読むことができました。歎異抄についての本は多くあると思いますが、その中でこの本を選んだ理由は为什么呢？

山本：この本の著者は結構浄土真宗の研修に講師として来てくださる方なのですが、その方から普段浄土真宗のお話を聞いたことがありませんでした。研修のときは心理カウンセラーとして様々な悩みを抱えた人のお話をしてくださる人で、特に子供向けのお話をしてくださる方です。私もそ

れを大変参考にさせていただいて、法話などで活用させていただいているのですが、何回か行かせていただいた研修の中で浄土真宗の話は一切されていませんでした。その人が歎異抄の本を出したということで、珍しいなと思って買ってみました。心理カウンセラーとして大変有名な先生ですが、カウンセリングと浄土真宗を重ね合わせることがなかった方でしたから、教えに無縁だったかたが教えに出会ってお育ていただいた方の本ということで、まずそこで興味を惹かれました。

住職：本の構成も良くて、目次のところでお話の大意がわかる題目の下に、歎異抄の条文がついていて、真宗の人からすれば、この題目についてこの条文を照らし合わせながらお話をすすめるということがわかりやすくなっていました。

山本：そこは、真宗の僧侶の方にサポートいただきながら、書いていたそうです。専門的に学んではいなかった方ですから、このお話は歎異抄でいうとここが合うというふうに、教えていただきながら

書かれたそうです。ですから、真宗の教えをいただいた方も、そうでない方も読みやすい作りになっているだろうと思い、この本をおすすめしました。

住職：わかりました。それでは最後に、8.「門信徒に向けて伝えたいことまた教えたいことはありますか」というところで「阿弥陀様にお伝えしているお御法は全て阿弥陀様の受け売りです、私の中から出てきたものは何一つありません」と答えていました。やっぱり浄土真宗の中で言ったら「他力本願」、阿弥陀様からのお力あるいはお智慧というものをいただいでいて、その受け売りというところもありますが、なかなかその受け売りをお話させていただくときには、自分の言葉で表現しないと難しいところあると思います。その辺で気をつけているところ、自分で意識しているところはありますか？

山本：そうですね。でも、逆に意識はもうしないようにしてます。教えは受け売りですけど、表現するのは私なので、だからおっしゃっていただいたようにそこは私のフィルターを通して、それが味わいになってくるんだと思います。

私の阿弥陀様の味わいはこうなんですよっていうのを伝えているけども、でも根本は受け売りで、特に親鸞聖人の受け売りっていうことで。自分の「個性」というものに布教師は結構迷われるんですよ。自分がどういう方向でいくのかと考えていくときに、結構悩まれるんですけども、悩まずにあなたの人生歩んできたそのままを伝えてていけばいいと思うんです。けどどうしてもみなさん真似から始まるんですけど、でもそれで終わってしまったらもったいないので、そこから自分の個性というものを出していけるようにしていけたらなと思っています。最初はこうしたらいいいのかなとも考えたんですけども悩んでもしょうがないなと思って、私は私なりの味わいというものを、それでいいかなと思っておりますので、もう今はあまり気を付けてるところはないです。

住職：ありがとうございました。これでインタビューを終わらせていただきます。今回は貴重なお時間誠にありがとうございました。

山本：ありがとうございました。

まとめQ&A

Q:あなたにとって浄土真宗とは何ですか？

A:光です。親鸞聖人様の書物『教行信証』の中の行巻に「無碍光如来の御名を称する」とあり、光をテーマにされているので、一言で表すなら光だと思いました。

Q:仏教の中での浄土真宗の特徴を一つ挙げてください。

A:阿弥陀様から与えられたお念仏です。他との違いは、浄土真宗ではお念仏は阿弥陀様から与えられたものであり、親鸞聖人は全部他力とおっしゃった点です。

Q:現代において僧侶が担うことができる役割はどんなものがあると思いますか？

A:ひたすら実践することです。言うだけでなく、行動が伴わないとダメです。生き方そのものを示すことが、現代の僧侶が担うことができる役割だと思います。

Q:布教師になった理由やきっかけは何ですか？

A:周囲のすすめと援助です。特に連れ合いと隣寺の花田さんのすすめが大きかったです。100日間お寺を

離れるのは勇気がいりましたが、2人の支えがあったからこそ、伝道院に行くことができました。

Q:布教師として気をつけていること、心がけていることはありますか？

A:必ず原稿を作ること、また同会所で同じ内容を話さないことです。原稿を作ること、言ってはならない言葉を避けることができます。同じ内容を話さないのは、自分の成長のためであり、聴衆への配慮です。

Q: あなたのお寺で特別に取り組んでいることはありますか？

A: 毎月開催される法話会で、聴聞を身近に感じてもらうことです。毎月開催することで、習慣になり、多くの方が参加してくださるようになりました。今後は、外部の方にも法話会に来ていただくことを考えています。

Q: 門信徒におすすめする書籍を一つ挙げて、おすすめポイントを教えてください。

A:『悩んだら歎異抄』です。心理カウンセラーの著者が、カウンセリングと歎異抄の条文を重ね合わせて、気づかされたことを丁寧に記されています。心理カウンセラーの視点から浄土真宗の教えを活用している

点が興味深いです。

Q:門信徒に向けて伝えたいこと、また教えたいことはありますか？

A:阿弥陀様にお伝えしているおみ法は全て阿弥陀様の受け売りです。私の中から出てきたものは何一つありません。教えは受け売りですが、表現するのは私なので、私のフィルターを通して変わって、味わいになってくと思います。



ホームページ過去投稿

徒然日記

乗雲山教願寺 ONLINE

投稿記事の続きはこちら

<https://kyouganji-1672.com/>

QRからもアクセスできます



児童念仏奉仕



3月も末の頃。まだ少し肌寒さが残るお寺に子供たちの声が響きました。発端は2月上旬。繋がりがあったとある方からの相談がありました。「お寺で子供たち向けの行事をしたい」「お寺に触れながら楽しめるような時間を作りたい」そんなお話をいただきました。その前からお寺で若い人向けのイベントをできないか考えていた当院にとっては渡りに船でありました。....

7月8月と暑い日が続く今日この頃体調不良からそのままくなる方やその他の事情によりお葬式の声が多くなりました。特に知人として一般参列させていただくお通夜・お葬式が何件かありまして、今回は参加させていただいた式について思い巡らせた細々としたことを書き連ねようかと思います。参列しましたお葬式だけではありませんが、最近は自由葬というもの....

最近お葬式にて感じたこと

徒然日記

昨今のお葬式事情

10月になってようやく涼しい風が吹くようになりました。今年の夏は特に暑く・・・などというのもう毎年のことになってきたのかなと思う今日この頃です。9月からはお寺のほうも少しずつ忙しくなってくる時期となっています。特にお彼岸はどこのお寺もお参りや法要が活発になることでしょう。例にもれず、私ども教願寺でも慌ただしい日々を過ごさせていただきました。....

報恩の日



毎年10月には当寺院で報恩講法要(ほうおんこうほうよう)という特別な法要をさせていただいております。報恩講法要というのは簡単に言うと、浄土真宗の教えを伝えてくださった親鸞聖人や救いの道をおすすめてくださった阿弥陀如来様に対する「恩に報いる」ために行われる法要です。 教えや導きに対して報いるにはそれに深くよりそって言われるとおりに道を....

「今年もう年末」。私は特にここ数か月が忙しかったので、この言葉がよく沁みるような気がいたします。今年も当寺院では年末の夜23時30分から年始の0時30分まで法要をさせていただきました。 それぞれ「除夜会」「元旦会」と申しますが、「除夜会」では除夜の鐘を鳴らす間本堂でお勤めさせていただき年の締めくくりとし、「元旦会」にて年と共に心も新たにお念仏を申す....

9月振り返りと秋季彼岸会法要



教願寺年中行事表

令和7(2025)年度

1月	1日(月)	午前0時	元旦会
	11日(土)	昼座2時	お七夜
	12日(日)	午前11時	おこう
2月	15日(土)	午後2時	仏教婦人会・お内仏報恩講
3月	18日(火)	午後2時	春の彼岸会
	～ 20日(木)		
4月	6日(日)	午前8時より	植木の手入れご奉仕
	12日(土)	午後2時	永代経法要厳修
5月	21日(水)	午後2時	親鸞聖人降誕会法要
9月	15日(月)	午前9時	仏教婦人会による清掃奉仕
	21日(日)	昼座2時	総代並世話人追悼法要
	22日(月)	昼座2時	仏教婦人会役員追悼法要
	23日(火)	昼座2時	戦没者追悼法要
10月	1日(水)	午前9時	仏教婦人会による仏具のお磨き奉仕
	11日(土)	午後2時	報恩講法要勤修
12月	31日(水)	午後11時30分	除夜会

お知らせ

1. 庫裏玄関の床修繕について

お盆終わってから秋彼岸の間の期間で床の修繕工事が入ります。この期間にお参りされる場合は工事作業の妨げにならないよう十分お気を付けてお越してください。

2. 畳入れ替えについて

2026年の1月～3月の間に畳が入れ替わる予定です。法要がある日程を避けて入れ替える予定です。こちらも作業の妨げにならないよう十分お気をつけてお参りください。

3. 住職継職法要について

2026年の11月29日(日)に法要を予定しております。また日程そのほか決まり次第再度案内いたしますが、ご門徒のみなさまにはご予約にお加えいただきますようお願い申し上げます。

4. 納骨墓について

現在計画進行中です。早ければ年内、遅くとも来年中には完成できればと動いておりますので、今しばらくお待ちください。

また、納骨申請につきましてはこちらも現在検討中ですので、詳細が決まり次第再度案内いたします。

乘雲山

浄土真宗本願寺派 乗雲山 教願寺
〒640-8442 和歌山県和歌山市平井424
TEL:073-451-0898